

井手町新庁舎等建設実施設計書（概要版）

令和 4年 3月
株式会社 千葉学建築計画事務所



鳥瞰イメージ 北東側より見る



〈ドマ〉イメージ 新庁舎1階の待合よりドマを見渡す



〈ニワ〉イメージ ふれあいセンター1階よりニワを見渡す

1.基本方針

1. 災害時の庁舎機能を確保し、外部空間と連携した防災拠点として機能する庁舎

- ・鉄骨柱に対して斜めにダンパーを設置した付加制振を採用することによって、地震による影響を極力おさえたり、非常電源の確保なども行い、災害発生時においても庁舎機能を維持できる計画とします。
- ・防災備蓄倉庫の設置、災害対策本部機能の集約化を図ります。
- ・「ドマ」は駐車場との連携がとりやすい配置とし、物資搬入や避難場所としても機能する防災広場として整備します。

2. 利用者にとってわかりやすく、将来の変化にも対応できるフレキシブルな庁舎

- ・府道や駐車場など、様々な方向からアクセスする来庁者がスムーズに窓口にアクセスでき、誰にとってもわかりやすい平面計画とします。
- ・各階の執務エリアを集約することで、将来の組織変更にも柔軟に対応可能なレイアウトとします。

3. 自然エネルギーを活用し、環境負荷を低減する庁舎

- ・自然通風や自然採光を積極的に活用し、なるべく化石燃料エネルギーに頼らない計画とします。
- ・太陽光発電や昼光利用など、自然エネルギーや高効率機器の採用など省エネルギー化を図ります。
- ・極力、メンテナンスフリーの素材を仕上げに採用するなど、建物の維持管理コストにも配慮した計画とします。

4. 周囲の風景と呼应し、様々な活動の舞台となる井手町ならではの庁舎

- ・「ドマ」と「ニワ」という性格の異なる外部空間を核とし、豊かな自然や、井手寺五重塔遺構等と呼应しながら人々の賑わいに溢れる、まちと自然・歴史に開かれた庁舎とします。
- ・山吹ふれあいセンターや道路休憩施設は、既存の集落の風景を踏襲する勾配屋根とし、歴史ある井手町にふさわしい佇まいとします。
- ・図書館やカフェ、物販施設などが外部空間を介して庁舎機能と絡み合い、役場に用がない人も気軽に訪れたいような、様々な活動に溢れた庁舎とします。



〈ドマ〉イメージ ふれあいセンター2階南側図書室よりドマを見下ろす



〈ニワ〉イメージ 道路休憩施設よりニワを見渡す

2.計画概要



広域配置図



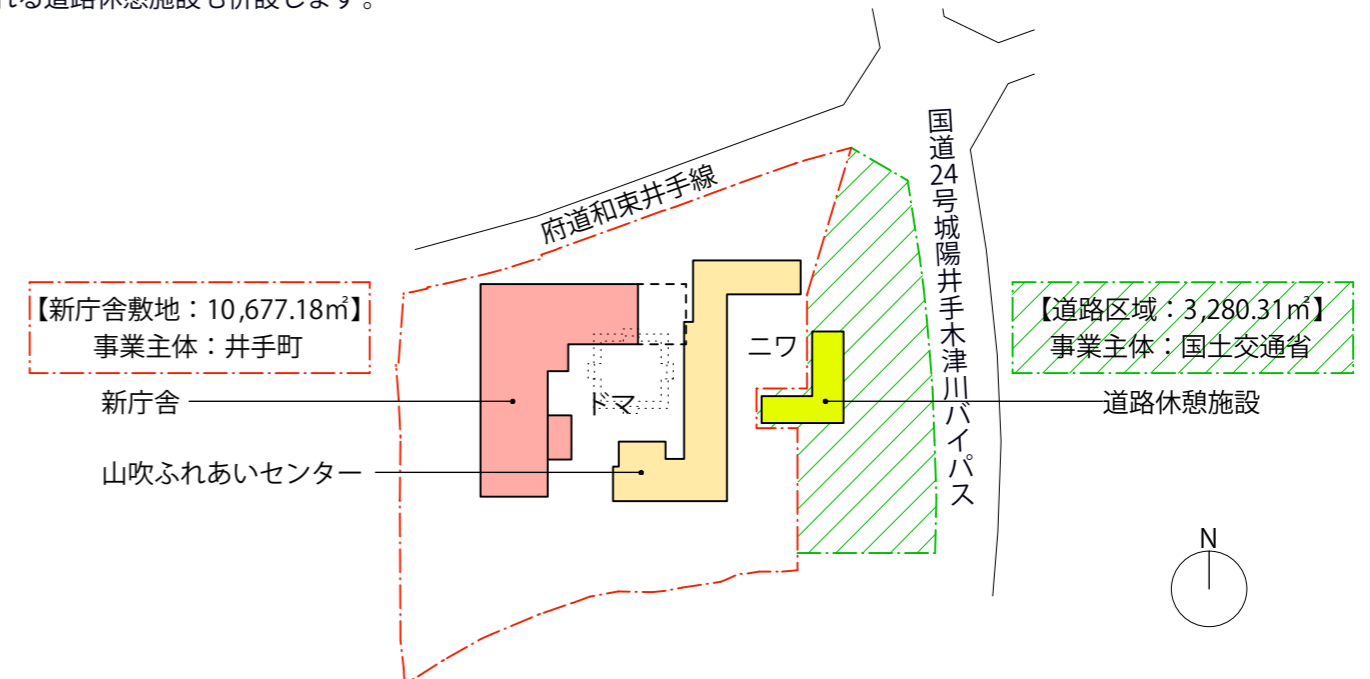
案内図

【周辺の避難所】

- ①自然休養村管理センター ②玉川保育園 ③老人福祉センター「玉泉苑」 ④井手小学校 ⑤山城勤労者福祉会館

□事業概要

洪水浸水想定区域内にある現在の庁舎機能を移転するとともに、現在の山吹ふれあいセンター（図書館、集会室等）が国道24号城陽井手木津川バイパス（以下、新国道バイパス）の建設に支障となることから、これらの施設を同一敷地内に整備します。また、新国道バイパス沿いが計画地であり、交通の結節点となることから、国道利用者が立ち寄れる道路休憩施設も併設します。



□計画概要

■新庁舎・山吹ふれあいセンター

計画地	京都府綴喜郡井手町大字井手小字東高月他地内
敷地面積	10,677.18㎡
用途地域	市街化調整区域
防火地域	法22条地域
その他地域・地区	井手町新庁舎周辺地区計画
駐車台数	133台（普通車：106台、公用車：24台、身障者用：3台）
駐輪台数	29台

[新庁舎]	
主要用途	庁舎
構造種別	鉄骨造
基礎形式	直接基礎
建築面積	1,560.64㎡
1階床面積	1,114.18㎡
2階床面積	1,282.90㎡
3階床面積	1,282.72㎡
受水槽床面積	64.80㎡
塔屋床面積	13.98㎡
延床面積	3,758.58㎡
階数	地上3階、塔屋
高さ	16.13m

[山吹ふれあいセンター]	
主要用途	図書館、事務所、店舗、飲食店
構造種別	鉄筋コンクリート造・木造
基礎形式	直接基礎
建築面積	1,361.63㎡
1階床面積	1,162.18㎡
2階床面積	1,001.89㎡
3階床面積	71.66㎡
延床面積	2,235.73㎡
階数	地上3階
高さ	14.49m

3.配置計画

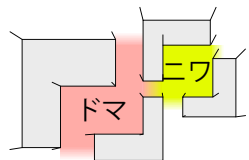
□配置のコンセプト

新庁舎・山吹ふれあいセンター・道路休憩施設は、「ドマ」と「ニワ」というゆるく囲われた2つの外部空間を中心に形成します。

ドマ：多彩な住民活動やイベントの舞台となる賑わいにあふれた空間

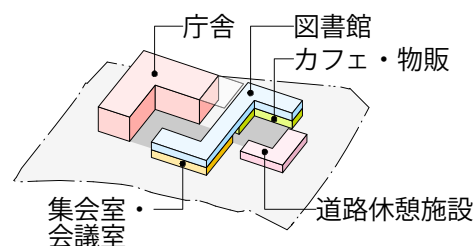
→災害時は駐車場と連携して一時避難・物資搬入の拠点となる防災広場

ニワ：読書や憩いの場となる緑豊かで親しみやすい空間



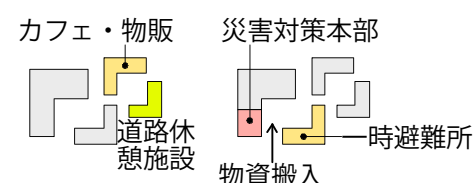
4つの「L」形の建物が絡み合った配置とし、「ドマ」・「ニワ」だけでなく周囲にも顔を向けた、外部との接点の多い計画とします。

府道、新国道バイパス、駐車場など、様々な方向からアクセスすることが容易で、敷地内外からも活動の様子が垣間見える、賑わいにあふれた庁舎とします。



庁舎、図書館、カフェ、物販、ギャラリーなど異なる機能が外部空間を囲んで向かい合う配置は、休日や時間外利用時のセキュリティ管理、災害時における機能転換を容易にします。

休日は図書館・カフェ・物販のみ運用したり、災害時は庁舎を災害対策本部や支援機関の待機場所、「ドマ」を物資の仕分けスペース、山吹ふれあいセンターを避難所として活用するなど状況に応じて柔軟に使い分けていくことが可能です。また、将来的な他用途転用にも対応可能な計画です。



〈休日・時間外〉
独立運用
〈災害時〉
ドマを介した連携

□動線計画

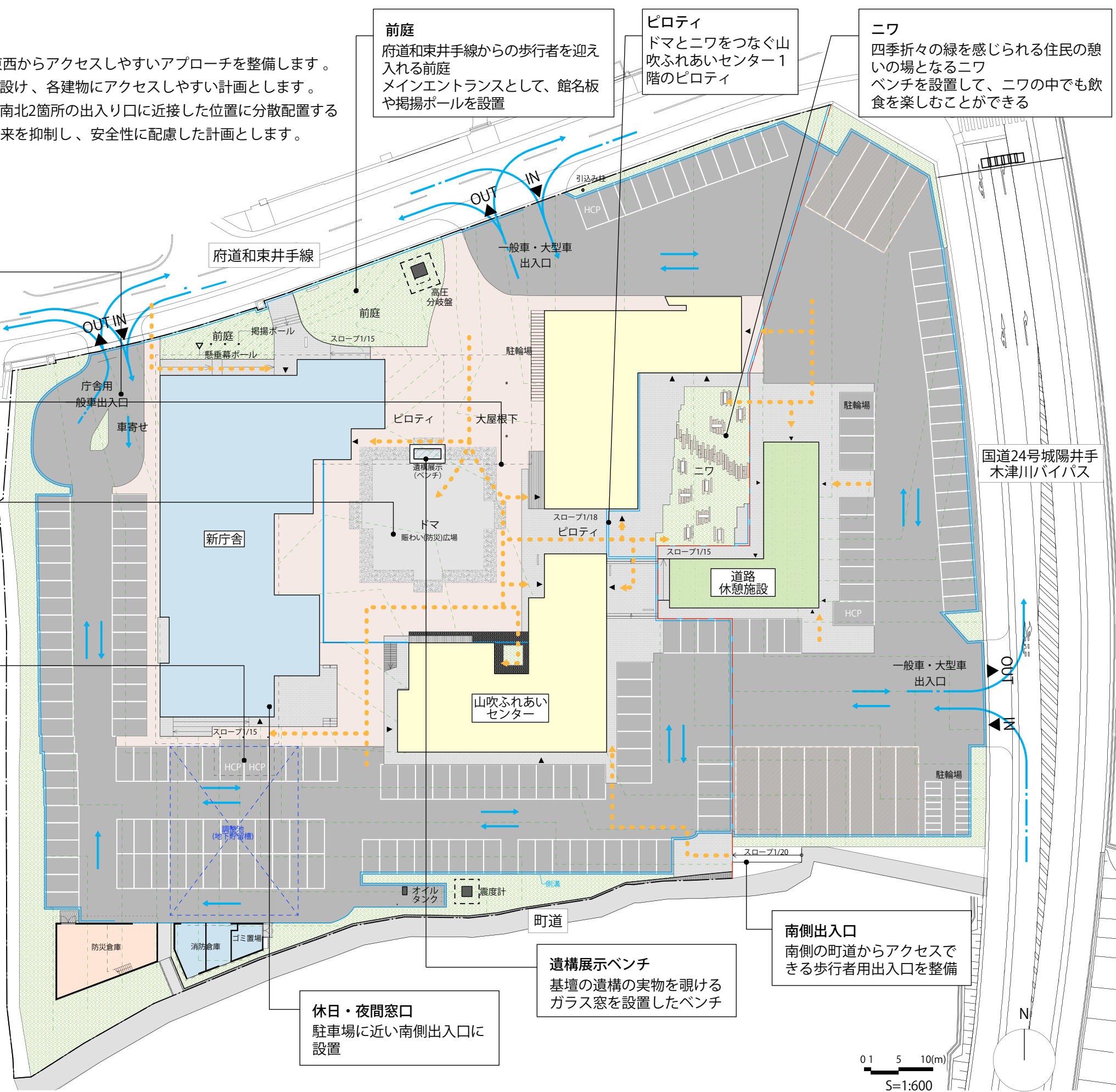
- ・府道からの歩行者に配慮し、東西からアクセスしやすいアプローチを整備します。
- ・敷地の南・東・西側に駐車場を設け、各建物にアクセスしやすい計画とします。
- ・道路休憩施設の大型車駐機場は南北2箇所の出入口に近接した位置に分散配置することで、敷地内で大型車の行き来を抑制し、安全性に配慮した計画とします。

車寄せ
送迎やタクシー利用車に配慮した車寄せ

大屋根
新庁舎と山吹ふれあいセンターをつなぐ大屋根

ドマ
様々なイベントや住民活動の場であるとともに、災害時の防災活動拠点となるドマ発掘された五重塔の基壇をイメージした舗装

HCP駐機場
庇の架かったHCP駐機場から雨に濡れずに建物へアクセス可能



前庭
府道と東井手線からの歩行者を迎え入れる前庭
メインエントランスとして、館名板や掲揚ポールを設置

ピロティ
ドマとニワをつなぐ山吹ふれあいセンター1階のピロティ

ニワ
四季折々の緑を感じられる住民の憩いの場となるニワ
ベンチを設置して、ニワの中でも飲食を楽しむことができる

休日・夜間窓口
駐機場に近い南側出入口に設置

遺構展示ベンチ
基壇の遺構の実物を覗けるガラス窓を設置したベンチ

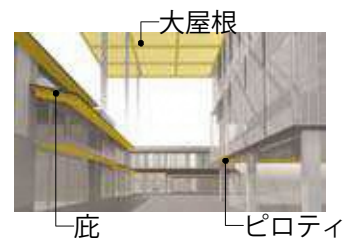
南側出入口
南側の町道からアクセスできる歩行者用出入口を整備

4.外装計画

外装材選定にあたっては、メンテナンス性に優れていること、また井手町に相応しい落ち着いた雰囲気醸し出すことのできる素材を重視しています。また、三つの建物の外装材は韻を踏むように、素材を同一にするところと差別化するところを共存させ、三つの建物が個性を發揮しつつ、一体の施設として感じられる計画としています。

新庁舎と山吹ふれあいセンターは同素材の外装パネルで包み、山吹ふれあいセンターと道路休憩施設は勾配屋根の軒が連なるデザインとします。建物高さを抑えたボリュームは伝統的な瓦屋根集落とも調和し、町全体の歴史的景観価値を高めることにも寄与します。

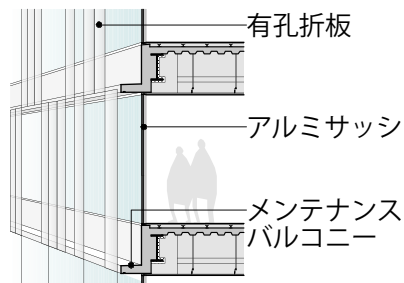
また、新庁舎1階のピロティや大屋根、山吹ふれあいセンター・道路休憩施設の周囲を巡る庇など、随所に様々な高さの軒下空間が連なります。これらの軒下空間は、各建物間を雨に濡れずに行き来できるだけでなく、屋外での多彩な活動やイベントを支え、防災拠点としての機能を補完します。



□新庁舎外装計画

新庁舎の外壁には、耐久性を考慮して溶融亜鉛メッキリン酸処理の鋼パネル、PCコンクリートパネル、アルミパネルを用い、開口部には、止水性やメンテナンス性を考慮してアルミサッシを使います。

また各階の間の外壁面には、容易に外壁の清掃ができるよう、PCコンクリート製のメンテナンスバルコニーを設置し、その先端には日射遮蔽のための有孔折板を、室内の使い方に応じて設置し、奥行きのある穏やかな表情を建物に与えます。



□山吹ふれあいセンター外装計画

山吹ふれあいセンターの外壁は、新庁舎でも使用している溶融亜鉛メッキリン酸処理の鋼パネル仕上げとし、サッシは、一部外壁と同じ素材を使いつつ、アルミサッシとして、メンテナンス性を重視しています。

1階和室の外壁と施設全体を巡る軒裏は、雨掛かりではないため、道路休憩施設と韻を踏む木材を使用し、親しみやすく暖かみのある雰囲気を醸し出すようにしています。屋根は、町内の町並みの景観を踏襲するよう勾配屋根としつつ、耐久性や安全性に配慮したガルバリウム鋼板とし、色彩は瓦屋根に近い色を選定しています。



木羽目板 アルミサッシ
大屋根下より土間を見る
コンクリート化粧型枠打放し
木梁現し
スチールパネル (溶融亜鉛メッキリン酸処理)



高耐食めっき鋼板製有孔折板
ガルバリウム鋼板製板金屋根
PC製メンテナンスバルコニー
ガルバリウム鋼板製板金屋根
コンクリート化粧型枠打放し
アルミサッシ
スチールパネル (溶融亜鉛メッキリン酸処理)
鳥瞰イメージ 南東側より見る

5.内装計画（新庁舎）

□内装のコンセプト

- ・地元の素材、町の色彩を生かす

新庁舎の内装には、仕上げ材だけでなく、家具にも府内産材等の木材を積極的に活用し、温かみのある空間とします。また町旗に使われている特徴的な<緑色>、町の花である「山吹」の<黄色>等、町の色を新庁舎のアクセントカラーとして利用し、町の方々が親しみを持てる計画とします。



- ・それぞれの階の雰囲気に合わせて内装仕上げ

<1階>

「ドマ」と連続する1階には、住民の利用頻度が高い窓口が並びます。また、期日前投票等に使用される中会議室や、遺構のある「ドマ」と連続するロビーなど、外部と一体的に利用される部屋が多いため、タイルの床等の耐久性の高い素材とします。また天井には、吸音性の高い岩綿吸音板を用います。

<2階>

1階に比べて専門的な課の窓口が多く、また、庁舎の中核機能も配置される2階は、居心地の良い場所となるよう、床は木質系のフローリングとし、壁は経済性にも優れた塗装仕上げ、天井は岩綿吸音板とします。屋外テラスの床は、フローリングとの連続性も考慮して、デッキ材としています。

理事者エリアの応接室はもてなしの空間にふさわしいカットパイルカーペットの床材、クロスの壁材で質感の良い仕上げとします。

<3階>

3階は外部から奥まっており、また議場も計画される落ち着いた雰囲気のある場所です。

議場内はカットパイルカーペットの床材、木質系の壁材とし、格式ある内装とします。議場エリアのロビーも木質系の壁材として、木に囲まれた議場エリアの統一感を作り出します。

天井：岩綿吸音板

壁：石膏ボード
+塗装

窓口カウンター：木

床：タイル



1階 ロビーから窓口を見る

天井：一部鉄骨現し
+木

テラス床：デッキ材

床：フローリング



2階 ロビーからテラス越しにふれあいセンターを見る

天井：石膏ボード
+塗装

壁：木乱貼り仕上げ

床：カットパイル
カーペット



3階 議場内観

6.内装計画（山吹ふれあいセンター）

□内装のコンセプト

山吹ふれあいセンターの内装仕上げは、木造の梁と柱の構造体を素直に現しつつ、部屋の用途に応じた性能や雰囲気に合わせて適材適所に内装材を選定し、使いやすく、また誰にとっても親しみやすく温かい雰囲気が感じられる計画としています。

<カフェ・物販>

1階北側のカフェ・物販エリアは、道路休憩施設の延長として数多くの来訪者が想定され、また設えも使い方に応じて変化していくと想定されるため、床は耐久性の高いコンクリート仕上げとし、また壁は、コンクリート仕上げの他、一部は木毛セメント板仕上げとしています。天井は、暖かみのある木板仕上げとしています。

<会議室・集会室>

1階南側の集会室、会議室の床は、メンテナンス性や吸音を考慮してタイルカーペットとし、将来の用途変更なども視野に入れ、OAフロアとしています。

壁は、吸音を考慮して木毛セメント板とし、天井は、木の構造体を現しつつ、吸音性の高い岩綿吸音板を梁間に設置しています。

<和室>

和室はお茶会もできるような本格的な計画としています。

床は本畳、壁は左官仕上げ、天井は梁間に木板を貼った勾配天井とし、水屋や違い棚、床の間などは伝統に則った仕様としています。

和室入口前は、前庭と位置付け、壁や天井は和室と同様の仕上げとしていますが、床は外の雰囲気を踏襲し、タイル仕上げとしています。

<図書館>

2階の図書館は、本の森のようなイメージの空間としています。木の柱が林立すると同時に、たくさんの本棚が立ち並ぶ計画です。

床はメンテナンス性と吸音効果を考慮してタイルカーペットとしています。壁は、一部耐震要素のコンクリート仕上げがありますが、基本的には木で仕上げた壁、本棚でできた空間です。本が日に焼けることを避けるため、小さな縦長のサッシが本棚と交互に並ぶようにし、本の森のイメージを作っています。天井は木造の梁を現し、その間を木毛セメント板仕上げとして、吸音効果を高めています。

また、図書館に置かれる書架は、木とスチールパネルで計画しています。

書架の棚板や天板は、内装に合わせて木とし、側板は、耐久性を考慮しつつ、サインや掲示物の設置も可能なスチールパネルとしています。

<多目的スペース>

3階の多目的スペースは、周囲を全て見渡すことのできる眺望の良い展望台のような場所です。将来にわたり多様な使われ方が想定されますが、町の方や来訪者の居心地の良さを考慮して床はフローリングとし、壁は塗装仕上げとしています。天井は、今後検討される多様な使い方に柔軟に対応できるよう、コンクリート仕上げとしています。

天井：木板張り

天井：一部木梁現し

壁：木毛セメント板

床：コンクリート仕上げ



1階 北側カフェ内観

天井：木梁現し

梁間：木毛セメント板

壁：木板張り

床：タイルカーペット



2階 児童書エリア おはなしルームを見る

天井：木梁現し

梁間：木毛セメント板

壁：コンクリート
化粧型枠打放し仕上げ

床：タイルカーペット



2階 ブリッジ北側から南棟を見る

7.平面計画

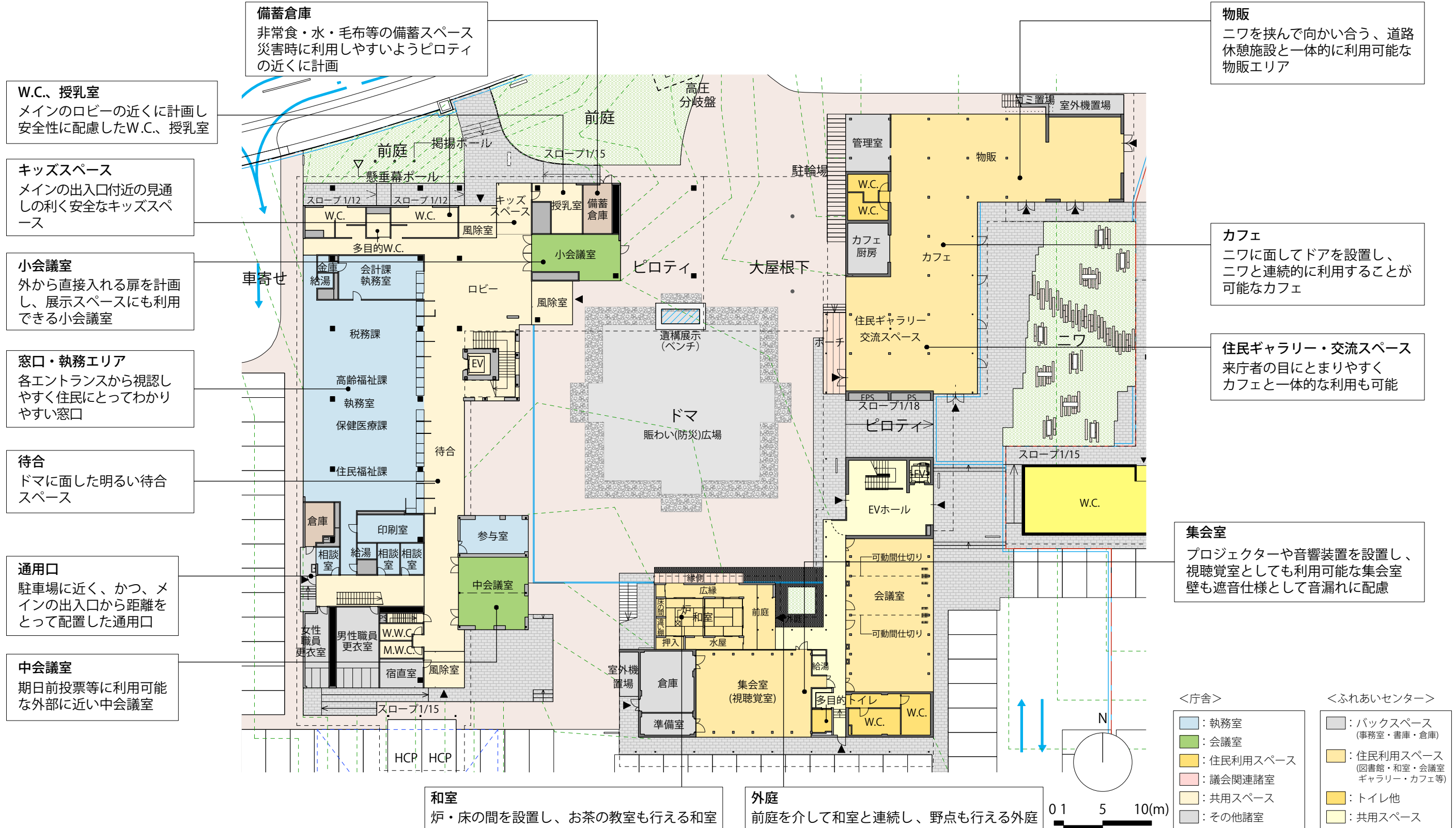
□ 1階平面計画

新庁舎

- ・府道からの歩行者、駐車場利用者、山吹ふれあいセンターとの行き来を考慮し、北・南・東側の三方に出入口を設けます。
- ・南北方向に窓口カウンターを設け、出入口からすぐに窓口へアクセスできる計画とします。
- ・来庁者用のエレベーター・階段は建物中央部に設置し、分かりやすく利用しやすい配置とします。

山吹ふれあいセンター

- ・北側には物販・カフェ・住民ギャラリーを配置し、「ニワ」を介して道路休憩施設と相互利用しやすい計画とします。
- ・南側には様々な住民活動の場となる会議室・集会室・和室を配置します。
- ・2階図書館へのエレベーター・階段は、どこからでもアクセスしやすい中央に配置します。



□ 2階平面計画

新庁舎

- ・執務エリアを西側にまとめ、将来の組織変更にも柔軟に対応可能な計画とします。
- ・業務で使用する諸室は執務室に近接させるなど、利用者・職員にとって使いやすいゾーニングとします。
- ・理事者エリアはセキュリティを確保しつつ、執務室とも連携のとりにやすい配置とします。

山吹ふれあいセンター

- ・北側を「ニワ」に面した児童書エリア、南側を「ドマ」に面した一般書エリアとし、中央のエレベーターからどちらにもアクセスしやすい計画とします。
- ・南北のエリアは自由に行き来できるブリッジで接続する計画とし、読み聞かせ等も可能な児童書エリアと静粛性を確保した一般書エリアにゆるやかなゾーニングを行います。



窓口越しに見た執務室

避難バルコニー

有事の際には二方向避難の動線となり平常時でも利用可能な大屋根下の眺めの良いバルコニー

大会議室

3部屋に間仕切ることができ、大小様々な会議に対応可能

執務エリア

組織の変更にも柔軟に対応できる計画

ロビー

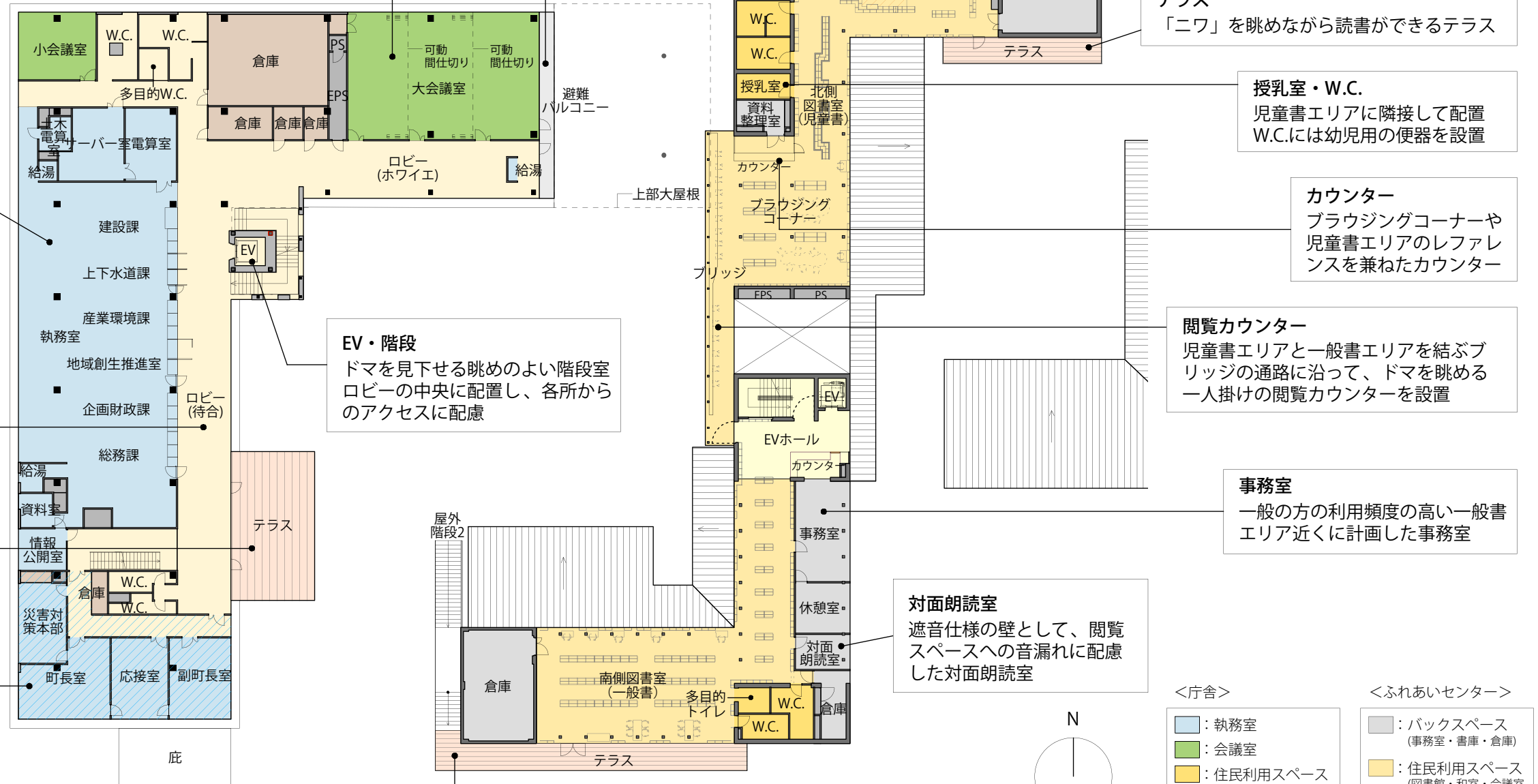
ドマを囲うようにL型に配置したロビー
明るく環境のよいスペースに大会議室前のホワイエや執務室の待合が並ぶ

テラス

ドマを見下すテラス
ロビーとつながり大きな広がりをつくる

理事者エリア

セキュリティを確保しつつ災害対策本部や関係課との連携のとりにやすい配置



おはなしルーム
一段上がったおはなしルーム
児童書エリアのヒダ状の形の書架と合わせて子供たちが楽しめる場所
乳幼児も寝転がることも可能な上足スペース

テラス
「ニワ」を眺めながら読書ができるテラス

授乳室・W.C.
児童書エリアに隣接して配置
W.C.には幼児用の便器を設置

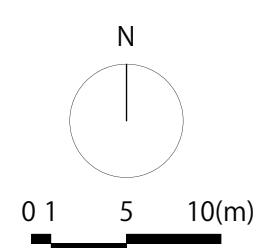
カウンター
ブラウジングコーナーや児童書エリアのレファレンスを兼ねたカウンター

閲覧カウンター
児童書エリアと一般書エリアを結ぶブリッジの通路に沿って、ドマを眺める一人掛けの閲覧カウンターを設置

事務室
一般の方の利用頻度の高い一般書エリア近くに計画した事務室

対面朗読室
遮音仕様の壁として、閲覧スペースへの音漏れに配慮した対面朗読室

テラス
ドマからも直接アクセス可能な眺望の良い南側のテラス



<庁舎>	<ふれあいセンター>
■ 執務室	■ バックスペース (事務室・書庫・倉庫)
■ 会議室	■ 住民利用スペース (図書館・和室・会議室・ギャラリー・カフェ等)
■ 住民利用スペース	■ トイレ他
■ 議会関連諸室	■ 共用スペース
■ 共用スペース	■ その他諸室
■ その他諸室	

□ 3階平面計画

新庁舎

- ・議会関連諸室を集約して配置し、議会の独立性・セキュリティを確保します。
- ・傍聴ロビーは階段室を介し「ドマ」への眺望を確保し、住民の利用も可能な計画とします。

山吹ふれあいセンター

- ・眺めの良い、多目的スペースとテラスを設け、エレベーターでアクセス可能な計画とします。



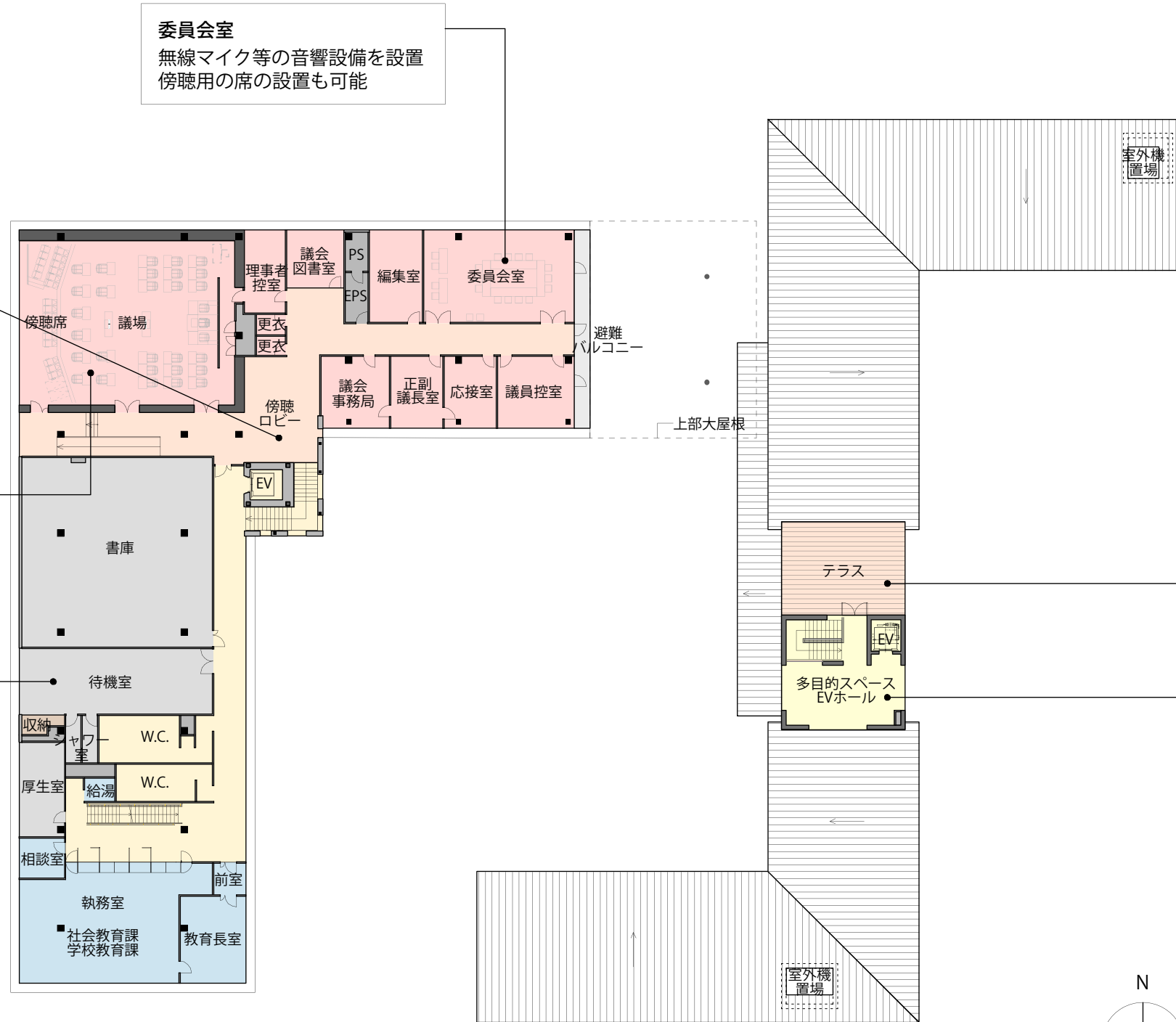
傍聴ロビー

委員会室
無線マイク等の音響設備を設置
傍聴用の席の設置も可能

傍聴ロビー
EVやメインの階段からのアクセスも良く
階段室越しにドマを見下ろせるロビー
バリアフリーに配慮してゆとりある幅の
廊下で議場の傍聴席とつながる

議場
多目的利用も可能な可動席とし、災害
時でも利用できるよう自然採光や自然
換気ができる窓を設置

待機室
災害時には消防団員の詰所にもなり、仮眠
スペースとしても利用可能な待機室



屋上テラス
周囲を見渡せる気持ちの良い屋上のテラス

多目的スペース
施設全体の中で一番高い場所に設置された
展望台のような場所
将来の様々な使い勝手に柔軟に対応できるよう
シンプルな内装を計画

<庁舎>

- 執務室
- 会議室
- 住民利用スペース
- 議会関連諸室
- 共用スペース
- その他諸室

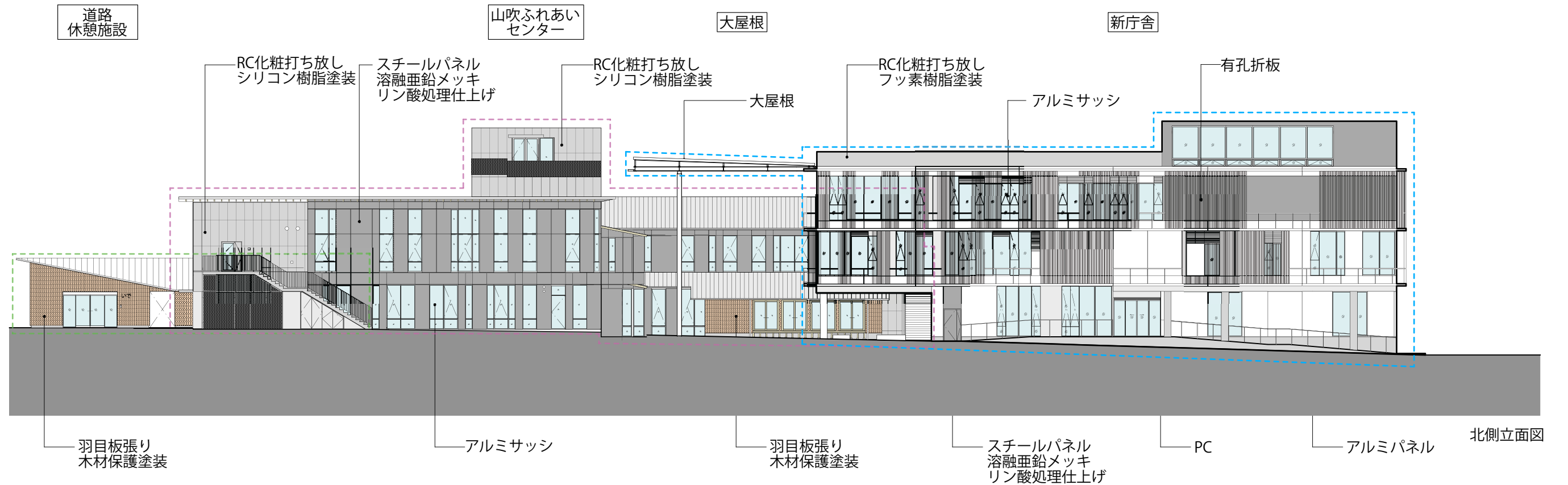
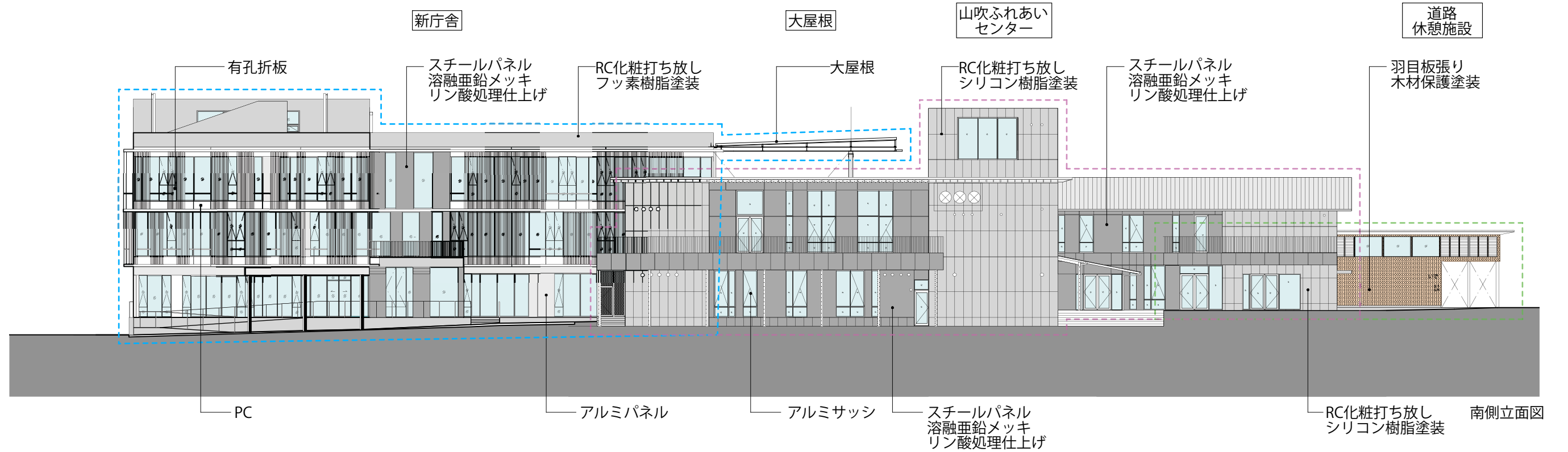
<ふれあいセンター>

- バックスペース (事務室・書庫・倉庫)
- 住民利用スペース (図書館・和室・会議室・ギャラリー・カフェ等)
- トイレ他
- 共用スペース

0 1 5 10(m)

8.立面計画

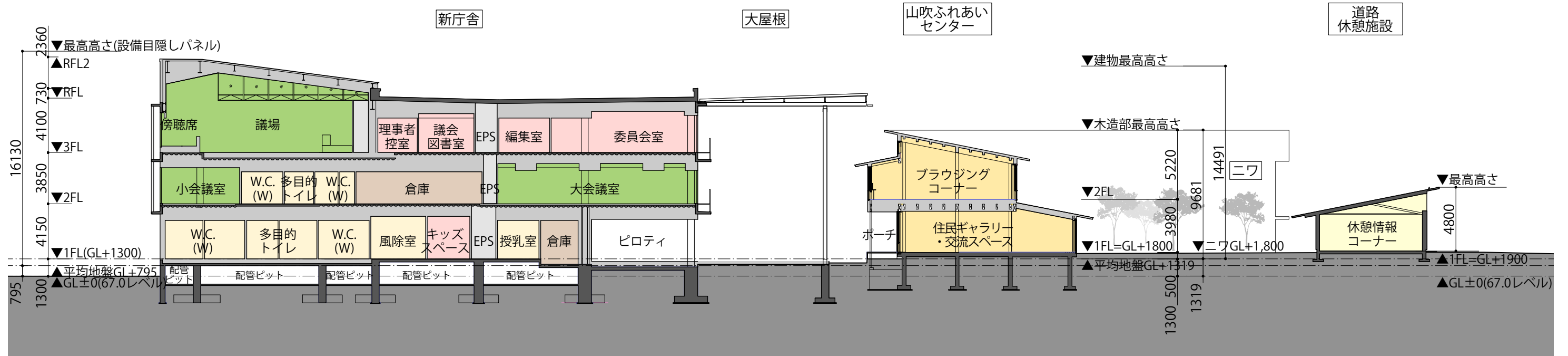
- ・新庁舎は鉄骨造、山吹ふれあいセンターは木と鉄筋コンクリートのハイブリッド構造、道路休憩施設はCLTパネル構造と、それぞれの用途に応じた構造形式ですが、3つの施設が一体と感ぜられるよう、共通の素材を利用したり、スチールパネルやアルミサッシなどと同じようなサイズで分割し、スケール感が合うように計画します。



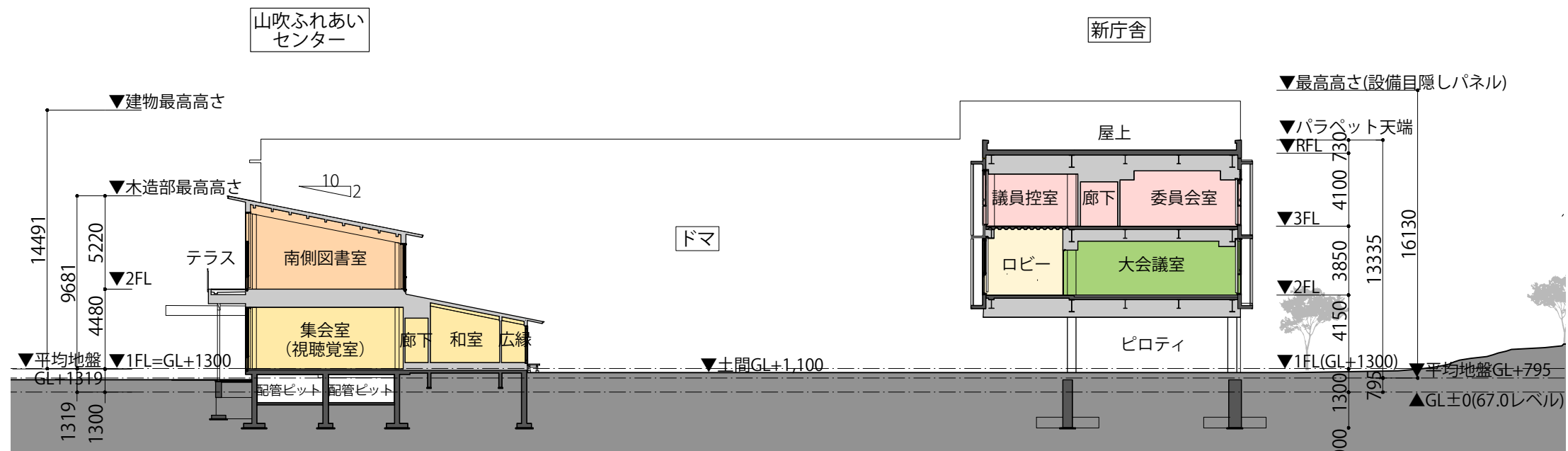
凡例 : 新庁舎 : 山吹ふれあいセンター : 道路休憩施設

9.断面計画

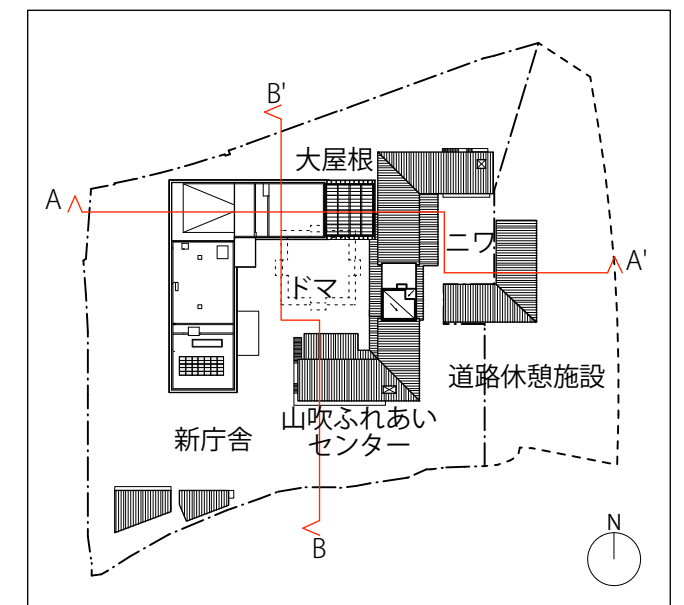
- ・新庁舎の1階執務室と3階議場に関しては天井高さを考慮し、床に空調吹き出し口を設置し、居住域空調を行います。
- ・ふれあいセンターは2寸勾配の片流れ屋根とし、安全面と内装のイメージを考慮して、できるだけ天井を貼らないようにして室内側にその勾配が現れるようにします。



A-A'断面



B-B'断面



断面キープラン
GL±0(67.0レベル)

10.環境配慮計画、防災計画

1. 自然エネルギーの活用

■自然通風・自然採光

「L」形の建物形状は、各居室が外部に面して開口部を確保しやすい計画です。自然通風・自然換気を積極的に活用し、中間期は極力空調に頼らない計画とします。また、外装の有孔折板により日射負荷の低減を図りながら、自然光を効果的に取りれます。

■太陽光発電設備

新庁舎屋上に太陽光発電設備(10kw)を計画し、平常時の電力負荷をまかなうとともに停電時や災害時の電力利用を可能にします。

2. ライフサイクルコストの低減

■建物の高断熱化・機器の高効率化

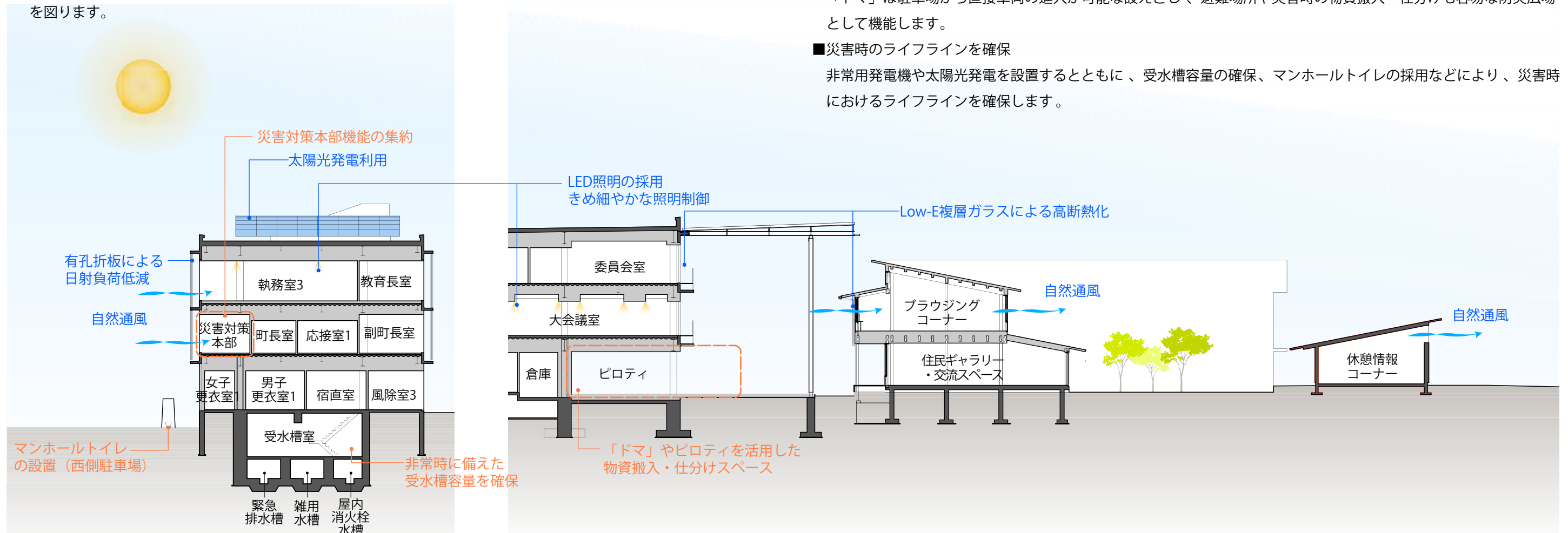
東西面の開口部はLow-E複層ガラスとし、高断熱化を行い、空調負荷を低減します。設備機器は高効率化を図るとともに、極力汎用品を用いることで機器更新の際のコストを抑えます。

■維持管理に配慮した素材・工法

耐久性・メンテナンス性に優れた素材・工法を用い、将来的な維持管理コストに配慮した計画とします。

■きめ細やかな空調・照明制御

ふれあいセンターは、図書館や会議室、カフェなどの様々な用途に応じた空調方式を採用し、利用形態・運営時間に応じ、個別に制御できるようにします。トイレの照明は、人感センサーを用いた点滅制御を行い省エネルギー化を図ります。



3. 防災拠点としての安全性

新庁舎は災害時においても庁舎機能を維持できるものとし、山吹ふれあいセンターは道路休憩施設のWC設備と連携し、避難所として活用できる計画とします。

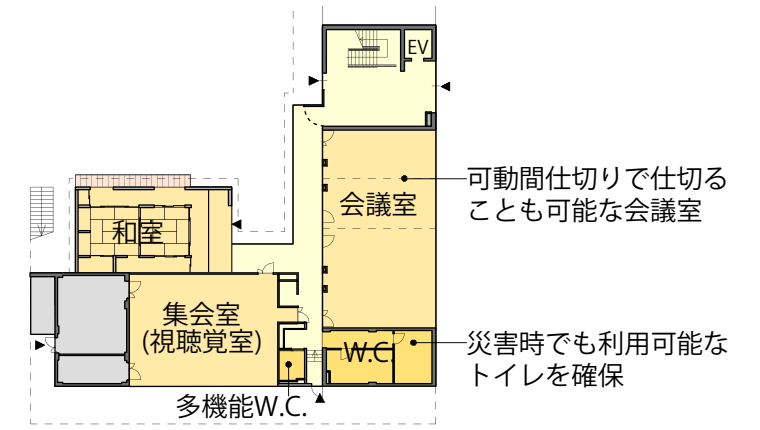
構造躯体の安全性、二次部材や設備機器の耐震性を確保するとともに、サーバー室については床免震を採用し転倒防止にも配慮します。また、新庁舎については鉄骨柱に対して斜めにダンパーを設置した付加制振を採用し、地震時の揺れを低減する計画とします。

4. 災害時の活動拠点・ライフラインの確保

■住民の避難所を整備

山吹ふれあいセンター1階の会議室・集会室・和室を災害時の避難所として活用し、避難者人員約150人・3日分の飲料水・非常電源(72時間)を確保します。

3部屋に分かれていることで、避難者のプライバシーも確保しやすい計画です。



山吹ふれあいセンター1階(南側)平面図

■災害対策本部機能を集約

新庁舎2階に災害対策本部・町長室等を集約し、迅速な情報共有・災害対応が可能なゾーニングとします。

■「ドマ」を防災広場に機能転換

「ドマ」は駐車場から直接車両の進入が可能な設えとし、避難場所や災害時の物資搬入・仕分けも容易な防災広場として機能します。

■災害時のライフラインを確保

非常用発電機や太陽光発電を設置するとともに、受水槽容量の確保、マンホールトイレの採用などにより、災害時におけるライフラインを確保します。

11.ユニバーサルデザイン計画、セキュリティ計画

誰にとっても分かりやすく利用しやすい快適な庁舎とするため、ユニバーサルデザインに基づいた計画とします。

■ゆとりのある待合スペース

各階の執務室前の待合スペースはゆとりのある幅員を確保し、車椅子やベビーカー利用者も不自由なく行き来できる計画とします。また、窓口には車椅子利用者も使いやすい高さのカウンターや記載台を設置します。

■目的の窓口までのスムーズな動線

府道と東井手線からの歩行者、車寄せや駐車場利用者など様々な方向からのアクセスを考慮し、どの出入口からでも窓口が視認しやすい平面計画とします。

■バリアフリー対応のエレベーター

新庁舎・山吹ふれあいセンターに車椅子対応のエレベーター（15人乗）を1基ずつ設置します。建物中央部にエレベーターを設けることで、誰もが利用しやすい配置計画とします。

■利用者の多いロビーにトイレを集約

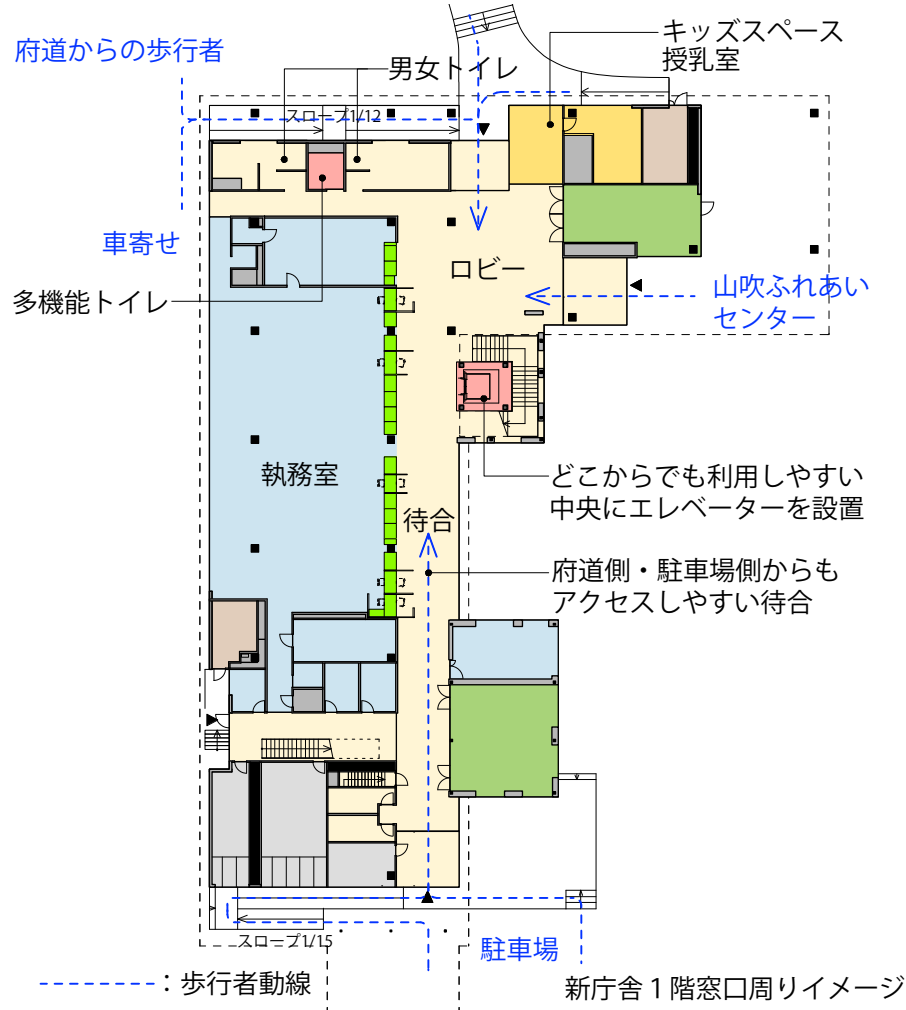
多機能トイレ・男女トイレは利用者の多いロビー周りに集約して設けます。待合スペースや出入口からも視認しやすい位置に配置し、サイン計画にも配慮します。

■子育て世代に配慮した計画

ロビー付近にキッズスペースを設け、子育て世代の来庁者も利用しやすい計画とします。キッズスペース、トイレに近接して授乳室を設置します。また、住民が利用する男女トイレにはベビーカーを設置したトイレブースを設けます。

■段差のない通路スペース

新庁舎や山吹ふれあいセンターの建物内だけでなく、敷地内の外構部分についても極力段差を設けずスロープ等で行き来ができる計画とします。



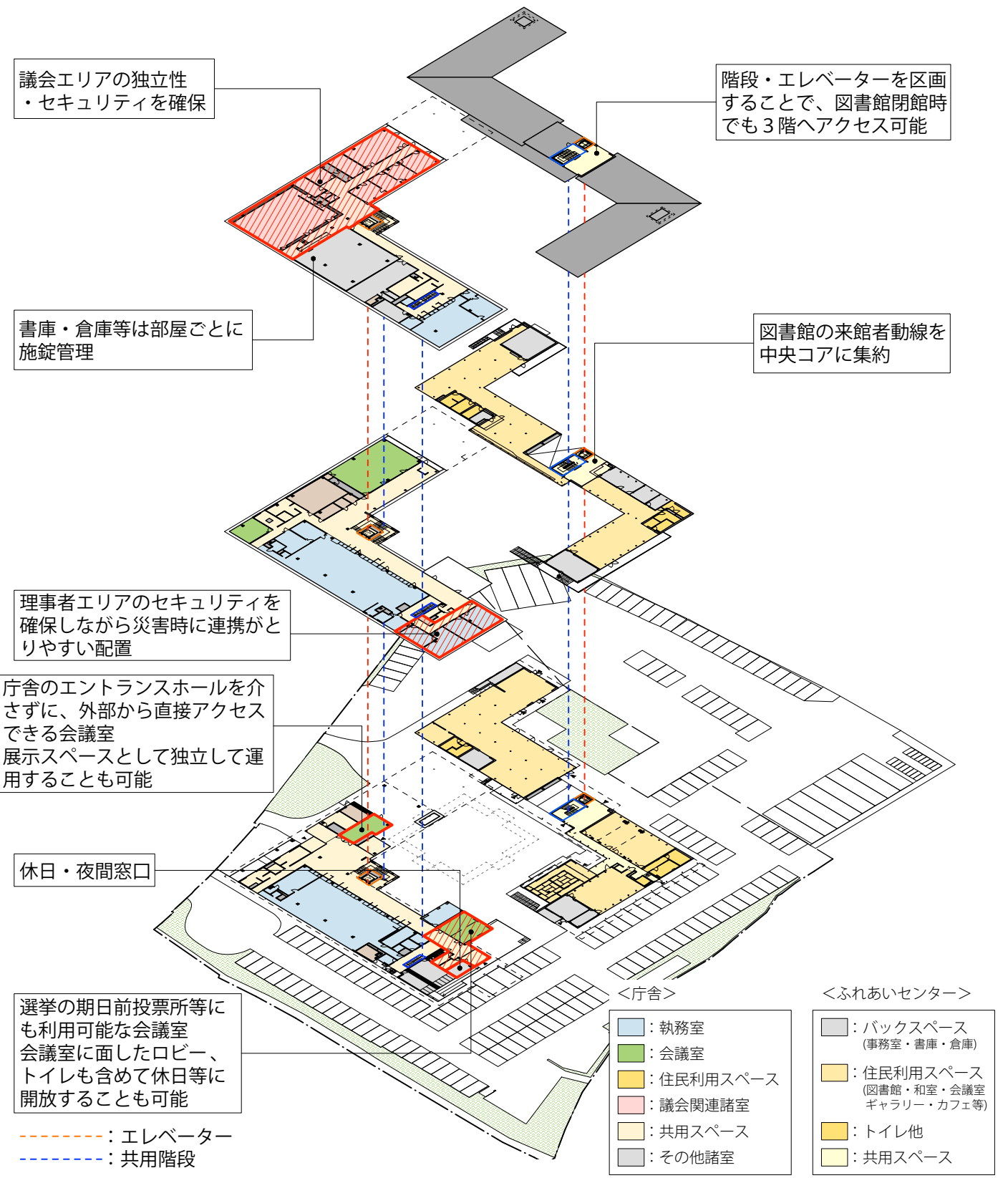
多機能トイレイメージ



授乳室イメージ

来庁者の利便性に配慮しながら、明確なゾーニングと動線計画によってセキュリティを確保します。執務室はカウンターによって共用スペースと区画されたオープンな設えとし、議会エリアや理事者エリアは建具によってセキュリティ区画を行います。

一部の会議室は休日・時間外利用にも配慮した配置とし、様々な用途が複合する山吹ふれあいセンターは階段・エレベーターを区画することで、時間帯の異なる運営にも対応可能な計画とします。





外観イメージ 北側道路より計画地を見渡す